

## 『働き手が送られるように』

吉田真司

先日(19日)に日本バプテスト連盟事業体(日本バプテスト連盟、西南学院、西南女学院、日本バプテスト医療団)懇談会がオンラインで行われました。その中で閉会メッセージの務めを私がいただきましたが、教会の皆さまにも共に覚えていただきたく、抜粋して紹介いたします。(以下、メッセージからの抜粋)

「イエス様は弟子たちに言われました。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送って下さるように、収穫の主になりなさい』(マタイ 9:37-38)と。これは、先週12日に行われた日本バプテスト病院開院69周年記念礼拝で取り継いだ御言葉の直後の部分です。日本バプテスト病院の設立聖句は『イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いをいやされた』(マタイ 9:35)であります。私はこの設立聖句に立つ医療団の志、つまり『キリスト・イエス』によってなされた業に仕え、それによって世に『キリスト・イエス』を証しする、その尊い使命を頂かれておられることを共に覚ええました。キリストの証の業が、教会の業と共に、医療の現場で大なる影響をもたらしてきたこと、そしてそれは『教育』という現場でも同様であったことをお話ししました。御言葉にある『働き手が少ない』というのは、それぞれの事業体が切実に感じている課題です。連盟諸教会の教会形成に携わる伝道者・信徒の減少、また医療・教育の働きに携わるクリスチャンワーカーの減少という課題です。コロナ危機の中で、私は教会で発言し続けました。『コロナ危機は私たち教会に大きなダメージをもたらしました。礼拝者の減少は顕著であり、社会的にも宗教不信の波は大きくあります。しかしだからこそ今が教会の時なのです。キリスト教の証しのしどころなのです』と。『収穫は多い』と主は言われます。それは『世には救いを必要としている人々が数多おられる』と理解します。その世にあつて、教会が、学校が、そして病院が、キリストの福音に基づいてそれぞれの事業に益々専心して参りたいと思います。時代が変れどもぶれずに、それぞれの設立の精神をあらためて心して参りましょう。協働の祈りの中に『働き手が送られるように』と覚え続けましょう。」

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝) 午前10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校 (嬰兒、幼児、小学生、中高生、 青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)	日曜日	午前 9:30~10:20
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&amp;FAX046(274)3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>